

178

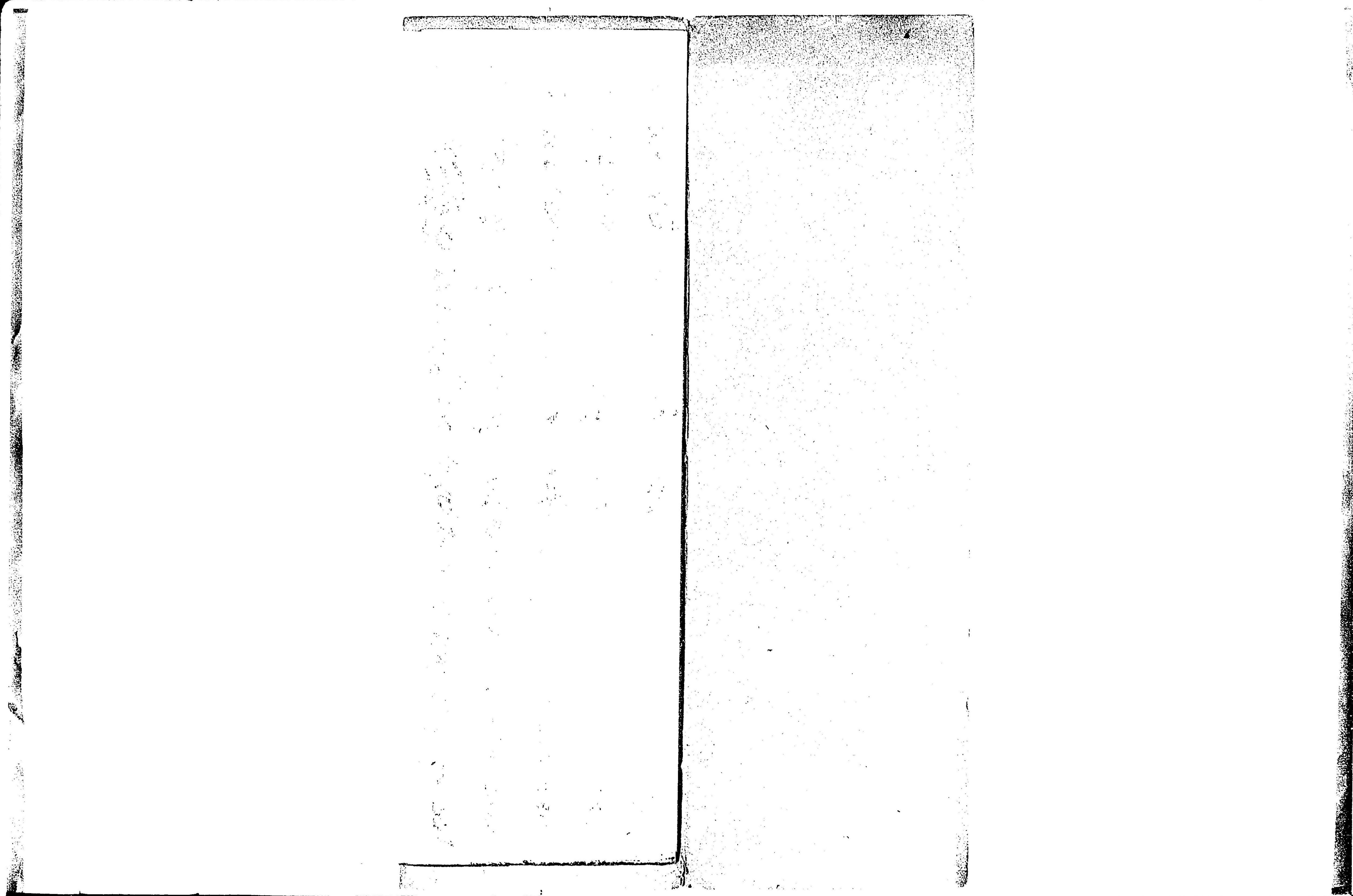
琴古流尺八樂譜

(春之調)

第參輯

303

411



東京圖書出版社  
著者　大庭義人

昭和四十四年七月二十六日  
内文

本居宣長の死後、その死因は、當時の文部省の調査報告によれば、心筋梗塞によるものとされた。しかし、この説には疑問が残る。本居宣長は、晩年、心臓病に悩まされており、また、彼の死後、多くの医師が死因を心筋梗塞と診断したが、その多くは、死後検査の結果、心臓病の病歴があるにもかかわらず、死因が心筋梗塞であるとは言えなかった。このことから、本居宣長の死因は、心筋梗塞によるものではなく、他の原因によるものとされるべきである。  
本居宣長の死後、その死因は、當時の文部省の調査報告によれば、心筋梗塞によるものとされた。しかし、この説には疑問が残る。本居宣長は、晩年、心臓病に悩まされており、また、彼の死後、多くの医師が死因を心筋梗塞と診断したが、その多くは、死後検査の結果、心臓病の病歴があるにもかかわらず、死因が心筋梗塞であるとは言えなかった。このことから、本居宣長の死因は、心筋梗塞によるものではなく、他の原因によるものとされるべきである。  
本居宣長の死後、その死因は、當時の文部省の調査報告によれば、心筋梗塞によるものとされた。しかし、この説には疑問が残る。本居宣長は、晩年、心臓病に悩まされており、また、彼の死後、多くの医師が死因を心筋梗塞と診断したが、その多くは、死後検査の結果、心臓病の病歴があるにもかかわらず、死因が心筋梗塞であるとは言えなかった。このことから、本居宣長の死因は、心筋梗塞によるものではなく、他の原因によるものとされるべきである。  
本居宣長の死後、その死因は、當時の文部省の調査報告によれば、心筋梗塞によるものとされた。しかし、この説には疑問が残る。本居宣長は、晩年、心臓病に悩まされており、また、彼の死後、多くの医師が死因を心筋梗塞と診断したが、その多くは、死後検査の結果、心臓病の病歴があるにもかかわらず、死因が心筋梗塞であるとは言えなかった。このことから、本居宣長の死因は、心筋梗塞によるものではなく、他の原因によるものとされるべきである。

又如「子」字，其形體與「子」字相似，但「子」字的「子」部是「一」形，而「子」字的「子」部是「ノ」形。這兩字在古文書中常有混用現象。

卷之三

**段合** 一  
合奏 二  
得

以  
上

合一段ト二段，  
合奏ヲ得

**303**

不許複製

明治四十四年七月十九日印刷  
明治四十四年七月廿三日發行

編輯者

琴

古流尺八研究會

春之調與付

右代表者

鈴木久左衛門

東京市本鄉區本鄉駒込十駒木林町百六十四番地

印 刷 者 三宅仙太郎

東京市下谷區下谷御徒町二丁目六十九番地

發 行 所 琴 古流尺八研究會

東京市本鄉區本鄉駒込十駒木林町百六十四番地

